慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	十九世紀初期に於ける英国都市生活の一面（三、完）
Sub Title	
Author	奥井, 復太郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1921
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.15, No.10 (1921. 10) ,p.1367(107)- 1378(118)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19211001-0107

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

つた事を告白しなければならぬ。資本及び土地の私有は卅年前と殆んど同樣繁昌してゐる』(Ibid. p. 243)事は彼等も肯定するのである。斯かる Fabian の樣な仕事を以て『Fabian の何人も Owen や Marx の樣な新らしい思想の偉大な宣傳者と肩を並べ樣とは要求しない。併し Fabian の樣に（漸次社會主義に向ひつゝある）時代精神の推移を理解する事も必要である』(Ibid. 240)

偖て以上の如く歷史的に述べて來た彼等の漸進的、實際的な主義政策の中には一面その弱點となり、又新興の理想家 Guild Socialists の餘りに誇張偏頗と思へるまでの非難と侮蔑を蒙る所がある。今此點に關して小泉教授の論文から二つの引用を請ふて此稿を終る。

『Fabian 社會主義は極樂境は一日にして成らず、改造には忍耐と長年月を要する事を說いた。忍耐を說く事と現狀に滿足する事とは同じでない。併し事實上忍耐を說く者は屢々現狀に對する「神聖なる不平」を忘れ易い。而してこれを忘れた瞬間に緊張は失はれて是に伴ふ人心浮化の作用も亦停止する。Fabian 社會主義(Revisionism, Possibilism 亦然り)の危險は此點に存した。』(改造所載『フエビヤン社會主義の功過』。卅七頁)『Fabian 一派と Guild Socialist との根本的相違は彼は人間を信じない實際家であるのに對して之は人を信ずる理想家といふ點に歸着する。實際家の目から見れば理想家の言說は迂濶で且つ俗に云ふお目出度いものであるだらうが理想家の目から見れば實際家の見解は低調で俗惡であるに違いない。Cole を初め Hobson, Penty, Russell 等の書を讀む者は通篇到處に理想家の俗物に對する反感と輕侮の念が露骨に現はれてゐるのを看過しないであらう。彼等は Fabian 一派の社會主義者が日常生活の必要のみに重を置いて人間の憧憬、熱情、理想等を解する事が出來ないのを陋として唾棄するのである。而して英吉利從來の社會主義者が他に如何なる功績あるにもせよ兎に角此批評を辭する事を得ないのは恐らく識者の一般に認めてゐる所だと思ふ。』(再論 Guild Socialism (二)九十八頁)

（完）

（附記　直接 Shaw の思想に多く觸れる余裕がなく表題に相應しからぬものとなりましたが Shaw 自身の社會思想に就ては別に述べてみたいと思ひます。）

十九世紀初期に於ける英國都市生活の一面（三、完）

奧井復太郎

十

前號に於てはエンゲルスの著書に基いて製造工業を中心として形成された都市に生活する勞働者の住居を主に紹介して置いた。エンゲルスは續いて勞働者の衣服や食物が想像を越えて粗惡なのを簡單に說明してゐる。小賣商人の狡智が工場勞働に依つて搾取せられた勞働者の所得を更に掠奪しやうとして居る。商業組織の缺陷は、人口の稠密な都市に於て充分に研究せらるる。消費組合の運動なども此の方面に於て起つて來る樣に、都市に於ける衣食の問題も決して等閑に附す可きものではないが此處にはエンゲルスに倣つて是れ以上言及する事をやめる。商業組織の缺陷の考察に就ては他によりよき機會が見出されるであらう。

エンゲルスは、『千八百四十四年に於ける英國勞働階級の狀態』の一章 The Great Towns に續づく二章 Competition. Irish Immigration の後に

Results の一章を設けて、一段勞働者の生活狀態が及ぼす影響を纏めて擧げてゐる。「競爭」の章は勿論企業家や、勞働者相互間の競爭に就て記述したものであり「愛蘭移民」の章は愛蘭からの移民が如何なる影響を英蘭本土の勞働者に及ぼしたかを說明して居る。前に述べた、勞働者街の裏路に豚を飼育する事は愛蘭人の始めた事であり英蘭勞働者が愛蘭移民の競爭に依つて蒙た打擊等は此の短い章に依つて明かにする事を得る。此處では其の次の章の「結果」を主として、更に前號にも述べておゐた Hammond 氏の「都市勞働者」の一章「新しき都市」を併せて都市生活に關する此の稿を終りたいと思ふ。

最も緊要なる生活資料の供給に充分でない狀態にある階級の人々が健康でなく且つ長命でないのは自明の事柄であるとエンゲルスは云ふ。『大都市に人口が集中する事自體が不利の影響を及ぼすものである、倫敦市の空氣は田舍の大氣に比して同じ樣に純淸であり酸素に富むものではあり得ない、二百五十萬對の肺臟と三十五萬個の火が三哩から四哩四方位の地域に密集して酸素の莫大な量を消費する。その酸素は都市建築の方法自體が空氣の流通を妨げるが爲めに之れを再び滿たすには非常の困難を伴ふ、呼吸と火の燃燒から生ずる炭酸瓦斯は其の比重に依つて街路に停滯し主なる空氣の流通は都會の屋根の上を過ぎてしまふ。從つて住民の肺臟は適當の酸素の吸入を得る事が出來ないで其の結果は肉體的、精神的倦怠と生活力の沈滯である。此の理由に依つて都會の住民は自由な正當な大氣の中に住む田舍の人民に比して急性、殊に災症性の疾患にに犯される事は少なくとも慢性の疾患に依つて惱まされる所は遙かに多い。』（エンゲルス前揭書九六頁）

誠に都市の發展が多くの人々から「自然」殊に田園的生活を奪つた事は著しく嗟嘆せられる所である。エンゲルスも其の書に於て產業都市の周圍に於ける自然の美しい景色を描寫して都市內部の醜惡な光景に對照させてゐる。（三九、四一、四四頁參照）ハムモンド氏は云ふ『以前英吉利の町に住んで居た人々はピサやヴェロナに住んでる人々を同じ樣に廣々した田園からそう隔たつてはゐなかつた。彼等の都市生活は果樹園や菜園で緣取られてゐた。然るに產業革命が發展して來てからマンチェスタアの樣な大都市が形成されて來て其處では勞働者は彼等の日々の生活を包む煙と汚穢の廣い網から逃れ出る事の益々難事である事に氣が着いた。然も都市が膨脹するに連れて其の境界內にある共同地の空地は漸次價値を增して來て權力階級の手に占有されてしまふ』と（「都市勞働者」四四頁）文明は大急ぎで產業地圖の上の綠の空地を眞黑に塗つて行くものである。

The trees are dusty in the Park,
The grass is hard and brown;
I'm glad I've got a Noah's ark,
But I'm sorry I'm in town.

此詩は單に小供丈の感情として眺める事は出來ない。中世紀的な田園生活を望む事は全然不可能であらうが人々が「自然」の風物より得る享樂を尊重する都市改良の可能性は皆無とは云へまい。然し吾人が都市に於ける勞働者街區の光景に就て考へる時は、問題は自然の風物の享樂と云つた樣な貴族的な關係を全然離れる。勞働者に取ては彼等の都市生活は現社會組織の下に於ては止むを得ざる方向であると共にかゝる生活は彼等の生命に脅威を及す所のものである。

エンゲルスの言葉を借用すれば「大都市に於け

る生活が上述の如く健康に有害であるとしたなら、既に觀察して來た樣に凡てのものが一致して空氣を濁らして居る勞働者の住宅地に於ける不純の空氣の有害なる影響が如何に大であらねばならぬ」かは明瞭である。惡臭に充ちた腐肉や野菜の散亂した路や、汚濁した溝や水溜、それから發する有毒の瓦斯や一杯に汚物を浮べた流れから昇る惡臭は「道を挾んで往來の人の頭の上で向ふ前の家の二階の人達が握手する事の出來る」樣な勞働者の町の全部を覆ふてゐる。更に各家の內部では呼吸の窒まる程に大勢の人々が一つの小さな部屋に集つてゐる。地下室を住家とするものさへある。エンゲルスは『若し大都市の人口が稠密に過ぎると云ふならば殊に此等の狹少の地域に押し込められた彼等こそ將に然る可きものであらう』と。（エンゲルス、九七頁參照）斯の如くして肺病や窒扶斯其他の傳染病にとつて最も適した條件が與へられてゐる。エンゲルスは千八百四十二年の恐慌の後に起つた窒扶斯の恐る可き猖獗に就て罹病者と死亡者との比較をしてゐるがそれによるとグラスゴーに於ては千八百四十三年人口の十二パーセントが罹病し三萬二千人中三十二パーセントは死亡しマンチェスタア、リバアプールに於ける此の死亡率は八十パーセントを起えてゐる。がそれでも前に述べた樣な勞働者の生活狀態や、かゝる傳染病流行の時に傳染病患者と健康體の者が同一の部屋や同一の寢床に臥寢してゐる事情を想像する時は「此の熱病の樣な傳染性疾病がもつと廣く蔓延しなかつたのが不思議な位である。」「又醫藥の手當や豫防の知識の缺けて居る割合には死亡率は實際少ない樣に思はれる」（エンゲルス一〇一頁參照）更に粗惡な食物から來る疾病も決して少なくない。商人の狡猾による混物のある食物や消化の惡い食料は勞働者が其の子供に酒精や阿片を與へる風習と共に勞働者及び其の子供の身體を害ねてゐる。scrofula（腺病或は瘰癧）rachitis（英國病或は佝僂病）や其他の猗形體は此の方面の結果として著しいものである。（エンゲルス一〇一二頁）

『凡て是等の勢力の結果は勞働階級に於て體格が一般に脆弱になる事である。……彼等は殆ど凡べて弱々しく骨立つた體格はして居ても決して强健なそれではなく、寧ろ彎曲して色は靑ざめ、筋肉は弛むでゐてたゞ彼等が仕事に使つてゐる筋肉丈が例外に發達してゐる。又大抵消化不良に苦しみその結果多少共憂鬱症性な快々たると共に激し易い神經狀態に惱む者である。彼等の衰弱した身體は疾病に抵抗し得ずして屢々其の犯す所となり爲めに若くして年老ひ早くして死亡するのである。』（二〇五頁）エンゲルスは此の點に關しては死亡統計は疑問の餘地のない確證を與ふるものとなして Register-General Graham の報告（Fifth Annual Report of the Reg. Gen. of Births, Deaths, and Marriages.）に就て數字を擧げてゐる。之れによると英蘭威爾斯の年々の死亡率は$2\frac{1}{4}$パーセント弱で每年四十五人に就て一人死ぬ數となる。然るに此の死亡率を大都市の其れに比較して見ると非常の差異を示す事となる。エンゲルスが擧げた數字を簡單に示せば（Manchester Guardian, 所報 July 31st, 1844）

Manchester (including Chorlton & Salford)……	one in 32. 72
〃 (excluding Chorlton & Salford)……	one in 30. 75
Liverpool (including West Derby)……	〃 〃 31. 90

〃　(excluding West Derby)……

‥〃　〃 29. 90

Cheshire, Lancashire, Yorkshire の農村や小市を包含した平均は二九・八〇人に對して一人の死亡割合である蘇格蘭に於ては更に此の割合が甚しく

Edinburgh ……　one in 29 (1838-39)

〃 (in the Old Town alone) ‥

〃　〃 22 (1831)

Glasgow (average since 1830)‥‥

〃　〃 30

〃　‥(in single year) 〃　〃 22 to 24

更に興味ある統計はエンゲルスがマンチェスタアの醫師 Dr. P. H. Holland 氏の調査を掲げたもので次に再錄して置く。ホーランド氏は街衢や家屋を三等級に分けて其れに依つて死亡率の差異を示してゐる。

First class of Streets.

Houses I. class.	Mortality	one in	51
〃 II. 〃	〃	〃	45
〃 III. 〃	〃	〃	36

Second class of Streets.

Houses I. class.	〃	〃	55
〃 II. 〃	〃	〃	38
〃 III. 〃	〃	〃	35

Third class of Streets.

Houses I. class.	Wanting	—	—
〃 II. class.	Mortality	〃	35
〃 III. 〃		〃	25

更に The Report on the Sanitary Condition of the Working-Class も同樣の事實を示してゐる。千八百四十年リバプールに於て調査された職業又は社會的地位別に依る平均死亡年齡は

上流階級や自由職業者にあつては三十五歲 business man や裕かなる手工業者にあつては二十二歲工場勞働者働者や日稼人足等一般に勤勞階級(serviceable class)にあつては僅かに十五歲の平均年齡を保つ。(以上エンゲルス一〇五―七頁參照)是等の統計數字の正確に就ては他の方面と考察した上でなければ明かでないが最後の平均死亡年齡が勞働者階級に於て非常に短かい事は他の事實に依つて推理する事を得る。即エンゲルスが云ふ如く勞働者にあつては幼兒の死亡數の夥しい事に依つて彼等の死亡率が高率を示してゐるのである。マンチェスタアに於ては勞働者階級の小兒の五十パーセント强は五歲以前に死亡してしまふに對して上流中流階級の小兒に就ては二十パーセント。地方に於ける全階級の小兒に就ては其の三十パーセントが五歲以下で死亡する。エンゲルスは Dr. Wade が十八百三十二年の Parliamentary Factorie's Commission の報告から引用した (Dr. Wade; "History of the Middle and Working-Classes" London, 1835, 3rd ed.) 死亡一萬人の年齡に依る死亡統計が土地に依つて變化するのを掲げてゐる。(エンゲルス一〇八頁參照)勞働者階級に於ける小兒の死亡が夥多なのはマルクスの資本論の中にも數字を示してある。そして彼は小兒の死亡の原因を女親が遠く家を離れて雇傭せられ家に殘つた小兒に對する注意の缺除や又不完全なる營養不適當なる食物及び親の小兒に對する疎隔放意の放擲等に歸してゐる。(資本論英譯本第一卷四三四―五頁)エンゲルスは多くの小兒が墜落や溺水や火傷に依つて死亡する事の英吉利の大都市より多數なのは外に見ないとして千八百四十四年十二月十五日の Weekly Despatch(マンチェスタア)が同月一日から七日に亘つて火傷や湯傷な

どに基く小兒の死亡六件を報じてゐるに驚いてゐる。（エンゲルス一〇九頁）

エンゲルスは轉じて精神的方面に於ける勞働者の不健康を説明してゐるが茲には其れを割愛する。何人も以上述べて來た樣な生活が決して美くしい精神的結果を生むものでない事を承知してゐるであらう。然し其れにも拘らず次の樣な事が言はれてゐるのは一應注意しておく必要がある。『貧民は富者が。貧民に與へるより、より多くを他の者に與へる』と。（"On the Present Condition of the Labouring Poor in 'Manchester,' etc. By the Rev. Rd. Parkinson, Canon of Manchester, 3rd Ed., London & Manchester, 1841, Pamphlet. エンゲルス引用一二五頁）

『勞働者は日常生活に於て bourgeois よりも遙かに人情深い。……貧民の維持に就ては勞働者に依て大部分が爲される。……彼等は自から苦しい經驗を經て來た從つて困窮してゐる他の人々に對して同情を感じうる。是等からして彼等は財産階級に比べて近付き易く親しみ多く又金に對しては非常に大なる必要を感じてゐるけれ共 bourgeois 程に强慾ではない。彼等にとつて金は其が購買し得る物の價値丈を有するに bourgeois にとつては一個の特別な固有な價値偶像的價値を持つてゐる從つてブルジョアをして彼が有るが儘の卑賤な低級の money-grabber に陷してしまつた』（エンゲルス一二四―五頁）勞働者の法律的罪や道德的惡に就てはエンゲルスは一二八頁から一三三頁に亘つて書いてゐるが其れに言及する事なくして此稿を終る。

十二

以上述べて來た通り十九世紀初期の都市は殊に製造工業を中心とする樣になつてから其の光景は誠に醜惡其のものであつた An Introduction to the Industrial and Social History of England の著者の E. P. Cheyney は其の書の二三八頁で次の樣に云つて居る『製造業都市の急激な發達は殊に北部に於ては地方の各部に散在してゐた人口を都市の狹隘な地域の中に追ひやつて茲に給水、排水及び新鮮な空氣に關する舊來の設備を一般的に破壞し又地代の價を騰貴せしめたので勢ひ狹い部屋に群居するの止むなきに到らしめた。十九世紀の初期に於ける工場都市は其以前や現在の狀態に均しく比較して著しく不潔であり群居雜沓しており風俗の頽廢して居る所であつた。』

十八世紀後半から十九世紀前半にかけて誠に其れは「發明の時代」であつた。ハムモンド氏は『此の時代の創造的組織的熱望や精神は恰も皆新しい産業を生み出した機械の製作や水火の征服と云ふ方面に向つてしまつたかの觀がある。人々は工場を建設する事に全く身心を奪はれてゐた爲めに都市はひとりで爲るまゝに殘された。』（「都市勞働者」四四頁）從つて彼が云ふ樣な都市精神は何處を眺めても之れを見出し得ない。Hammond 氏は『歷史に於て都市及び都市生活に結び着けられてゐる主要なる觀念は Shelter の觀念である。最初は人類に對する原始的危難である自然、野獸、外敵及び掠奪的貴族等の危難より保護するものである。』然し人類文明の進歩と共に都市は單に生命の保安所であるに止まらずしてよき生命の保護所となつた。『即ち單に男女の食物や家庭を保護し助成するに止まらずして光明と知識、團結と經驗から生ずる仁愛と文化、自由と正義の觀念、發展と自己表現に對する希望等を育くむ所となり、都市は斯くして人類の力、創意性、氣力、同情及び慾望の種類や性質を表徵する樣になつた。』（ハムモント氏三七頁）

茲に都市精神は生れて來る、都市は市民の本能趣味信仰を表現し養育する生きたPersonalityであり廣く且つ美しく描き出された市民の團結せる誇であつた。所が近代の産業都市は全く其れと趣を異にした。新しい都市の中心となつた製造業は都市精神よりは寧ろ個人の利益を中心として行はれた其の周圍には資本家の貪慾に賄ふ粗雜な建築家の貪婪があつた『是等の都市は彼等の産業の如くに醜惡なものとなつた。兩者共に其の醜惡は人類が其の中に幸福と自己表現を見出す事の出來ぬ樣な仕事と生命の徵候であり世界の美術と美とに於ける分與を受くる權利を剝奪された人類の烙印である』（同四〇頁）

『是等の都市は眺めらるゝ通りのものであつた。是等は一定の場所に集められた民衆の大集園のsettlementであつた蓋し彼等の指や筋力は此處の水流の邊に於て彼處の熔爐の口に於て必要とせらるゝ丈で彼等は此の市彼の都市の市民でなくて此の主人彼の主人の使用人に過ぎなかつた……』（同上四〇頁）是等の都市に於て「自然」が全く失はれたのは既に說いた。ハムモンド氏は四四頁から四六頁に於て如何に都市が汚なかつたかと云ふ事を列擧し、或者は此の不潔な「新しい空氣」（new atomosphere）を「眞黑な流れや煙突を歌ふrhapsody」に於て讃美するけれど其は畢竟後得の趣味であつて人間の性質は工場や熔爐の飾られた天蓋よりも失はれた虹を慕ふ者であると云つてゐる。（同四六頁）斯かる理由からして都市の生活には勞働生活を離れて考へても産業組織の壓迫を緩和する何物も見出せない。都市も街路も建物も空も皆市民を救ふ事の出來ない光景の一部分となつてしまつてゐる。工場の內部でも工場の外でも自分等に關係した事柄に對して何等權能を持つてゐない勞働者にとつては都市と工場との間には何等相違がない、中世に眺め得た樣な都市精神は何處に望み得やうか。かくの如くして都市は文明や光明の焦點である事の代りに暗黑と恐怖の中心となつた感がある。（ハムモンド氏五三頁）

十二

最近都市改造の叫ばれる聲は可なり囂しい然し既に述べた樣に其れがたゞ都市の一方面のみを美しく飾る事に終りはしないか。今迄述べて來た樣な都市の慘害が現在に於ては果して改良せられたであらうか。是等の都市生活の弊害が完全に除かれる時はエンゲルスが考へてゐる樣に社會の根本組織に改造が加へられる時ではなからうか。然し其の點は此處では不問に附しておく。たゞ最後にエンゲルスの言葉を引用しておかう。

『蒸汽機關は製造業都市の親である』と云つた人がある。其の事實は今迄の記述に於て既に明かであらう。其してエンゲルスの云ふ通り産業革命が英吉利無産者階級を生み出したとするならば『大都市は勞働運動の發生地である。此處に於て勞働者は先づ自己の立場を反省し其れに對する反抗を始めた。此處に於て無産者階級とブルジョア階級の對立が明瞭に示された、そして此處から勞働組合チャーティズム及び社會主義が發展して來たのである』（エンゲルス一二二頁）とする彼の言葉は正鵠を得てゐると思ふ。

誠にオッグが唱へた樣に都市問題は大なる難關を其の前に控へてゐるものである。（完）

附記　前號に於てマルクスの資本論に就て一言した關係と本稿に於て多少同書に依らなければならない筈であるが途に手が廻はらなかつた爲め此の方面を除いてしまつた、深く之を謝しておく。然し十九世紀初期の都市生活を觀察するには他方初期工場制度の組織殊に工場勞働者の生活を觀察する必要がある筆者は今其の意向を有して

ゐるが故にマルクスに就ては其の機會に讓りたいと思ふ。大正十年九月十一日稿了

經濟史研究に就いて（四）

野村兼太郎

九

唯物史觀に就いて論ずるに當つて、先づシュタムラーの論文「唯物史觀」を紹介することは必ずしも無用なことではあるまいと思ふ。(1) シュタムラーは最初に先づ此の學說の大要を說明して居る。

「一、人類社會の基礎。歷史の唯物的觀察は次ぎの如き命題から出發する。即ち生產及び生產に次いで其の生產物の交換とがすべての社會秩序の根本であると云ふこと。歷史的に進步する各社會に於いて、生產物の分配及びそれと共に階級若しくは階段に於ける社會組織は何を生產し、如何に生產し、又產物を如何に分配するかと云ふことに適應することから出發する。

「人類は是に依れば社會的本能を有する生物である。其の同類と永續的社交性に動かされる衝動を具へて居る。――此の社會的衝動に從ふことは更に生存競爭に適應することになる。

「故にすべての社會觀察は終局に於いて社會經濟の種類に這入る。人類のすべての社會的存在の定れる根柢は彼等の生活の一般的生產である。すべての社會的變化の最後の原因は其の時代の經濟の中に求められる。

「就中ある國民の法律は、此の學說に從へば經濟的關係の特殊に依つて條件づけられる。それは社會經濟的生產方法に依存する。社會的經濟は實際的現實の社會生活であり、又法律的及び政治的上層構造を築上げる根柢を形成する。若しも此の社會經濟の根柢が其の種類を本質的に變更するならば、必然直ちに問題となる社會の規定されたる形式は變化を生じなければならない。

「此の點から唯物史觀は人類の歷史に於いて制定される社會生活の合法性を生ずる。それと共に常に發展史的見地が把持される。社會的秩序の經濟的土臺は決して一定不動の狀態として理解されない。却つて絕えざる流に於いて理解される。是等の運動は自然科學的方法に於いて追求され認められる。同樣に一般に社會變化の必然的經過を生じ、又同じく歷史的觀察に於いても又近き將來の考察に於いても社會經濟的發展の確實なる傾向を豫想するやうになる。

「故に社會生活に於いて經濟現象は外的現象に適應する。社會經濟的現象は社會的唯物主義に從へば自然的形成物である。是等は發生し動き且つ變化し沒落する。――すべて自然科學的に研究すべき過程である。全體に於いて是等は人類の社會存在の資料である。人類の生活と經過とに於いて是は其の運動を說明する。故に社會生活の科學的觀察は結局に於いて常に經濟的現象の合法的研究に歸せなければならない。

「二、經濟的關係の反射としての社會觀念。吾人は恰も社會的唯物主義が社會發展の重要なる起源として獨占的に『物質的』動因を採り、之に反して理想的要因が人類の歷史の過程に於いて最大の利害及び有力なる作用たることを否認若しくは看過するかの如き迷誤に屢々出會する。是は一の根據なき臆說である。

「唯物史觀は廣義に於ける『觀念』の從ふべき意義を認めないのではない。人類の表象及び努力に於いて理想的目的の現出を否認するものでもなく、又斯くの如き觀念が屢々歷史的に現在の法律變化に對して重要の理由であり、又常に理